

2024/7/25（静岡県磐田市）



【静岡県立農林環境専門職大学】  
全国初の農林業分野の専門職大学（2020/4 開校）  
～農林業の人材育成～

2024/7/26（静岡県伊豆市）



【伊豆市食肉加工センター・イズシカ問屋】  
鹿肉の捕獲から食肉加工まで完結・公設公営  
～有害鳥獣処理及びジビエの利活用～

2024/11/18（岐阜県大野町）



【株式会社サン・シング東海】  
寝具を中心とした病院・介護用品リース事業・特例子会社  
～障がい者雇用の定着支援・生産工場の取組～

2023/11/18（岐阜県美濃市）



【森林総合教育センター・モリノス】  
岐阜木育・森林環境推進のための総合拠点  
～木材利用の機運醸成と利用促進～

2024/11/19（岐阜県郡上市）



【郡上大和総合開発株式会社】  
東海北陸自動車道の建設費6億円を償還するため、  
昭和63年に設立の第三セクター。  
「道の駅古今伝授の里やまと」他、3施設を管理運営。  
～地域経済活性化及び雇用創出・人材育成の取組～

2024/11/20（福井県坂井市）



【北陸デジタルものづくりセンター】  
産総研が全国展開する12番目の研究拠点  
金属加工業や繊維産業におけるデジタル技術を活  
用したものづくり技術の開発支援  
～デジタル技術を活用したイノベーション創出～

# 《SMILE》

スマイル

## 府議会議員北岡ちはる活動報告

2025.3.21 通巻No.-48

【北岡ちはる事務所】

京都市左京区北白川山田町10-1 1階

Tel 075-702-9400

Fax 075-723-6600

～安心・安全の京都づくりに向けて～

物価高騰や米不足等、日々の生活に大きな影響を及ぼす状況が続いており、また、自然災害に対して平時からの備えが重要な中、京都府議会において、各般にわたり必要な進言を行い、安心・安全な京都づくりに邁進してまいります。皆様からのご指導、ご助言等を賜りますよう、何卒、宜しくお願い申し上げます。

府議会議員  
北岡 ちはる



### あたたかい京都づくり実感予算

令和7年度京都府当初予算 1兆604億9900万円（令和6年度2月補正予算を含む）

「安心」、「温もり」、「ゆめ実現」の3つの視点から「あたたかい京都づくり」を目指した施策が展開されておりますが、令和7年度はこれまでの取組を踏まえ、府民の皆様へ「あたたかい京都づくり」を「実感」していただくための予算が2月府議会に提案され、私は予算特別委員会当初予算審査小委員会委員として、審査いたしました。

当初予算に盛り込まれた施策（一部抜粋）

#### 全ての営みの土台となる「安心」

- ①安心できる健康・医療・福祉  
新規 子どもの心の診療ネットワーク事業費（発達障害診療体制の再構築） 1,800万円
- ②災害・犯罪等からの安心・安全  
新規 避難生活環境改善事業費（広域支援用の資機材等を確保） 1億4,400万円

#### 子どもたちを育み、絆を守る「温もり」

- ③子育て環境日本一・京都  
新規 妊娠・出産・子育て総合相談体制整備事業費 1,000万円  
（府市の相談窓口を一本化し、24時間・365日の受付体制を整備）  
新規 先天性代謝異常等検査費（新生児マススクリーニング検査の実施体制強化） 3,000万円
- ④誰もが活躍できる生涯現役・共生の京都  
拡充 地域交通総合対策費（地域公共交通の人材確保の支援等） 3億7,200万円
- ⑤共生による環境先進地・京都  
拡充 「KYOTO地球環境の殿堂」事業費（環境先進地京都を世界に発信） 1,300万円

#### 希望や活力の源泉となる「ゆめ実現」

- ⑥未来を拓く京都産業  
拡充 金融・経営一体型支援体制強化事業費（中小企業伴走支援体制を強化） 5億6,000万円
- ⑦文化の力で世界に貢献する京都  
拡充 大阪・関西万博フラッグシップ・アクション 6億5,000万円  
（国内外の多くの万博来訪者に京都の歴史、文化、伝統等の魅力を発信）  
拡充 京都国際アート市場活性化事業費 1億700万円  
（身近にアートに親しめる「文化が活きる京都」を実現）
- ⑧交流と連携による活力ある京都  
新規 府市連携「まるっと京都」推進事業費（「朝観光・夜観光」などを推進） 7,500万円  
新規 府立大学スポーツ施設整備検討費（府立大学のスポーツ施設整備の検討） 2,600万円

#### 人・物・情報・日々の生活の基盤づくり

- 道路整備等の公共事業 819億9,300万円  
（8つのビジョンを支える人・物・情報・日々の生活の基盤づくりを着実に推進）

<京都の強みを生かした半導体産業の推進について> **【(仮称)京都半導体バレー構想】**

**Q.1** 【(仮称)京都半導体バレー構想】で示された3つの分野のうち、**パワー半導体分野**については、京都の強みとも言える基板材料の研究、省エネ社会の実現、パワー半導体需要の成長といった背景や理由をもってターゲット分野の一つに挙げられたと考えるが本分野をターゲットとした考えはどうか？



**A.1** シリコンカーバイトパワー半導体の開発において、京都は大きな役割を果たしてきており、京都大学等の研究者の方々により、電力効率の高い酸化ガリウムや二酸化ゲルマニウムといった次世代の素材に関する研究が京都で進められている。今後、シリコンカーバイトで研究から実装までのエコシステムを構築した京都において、次世代パワー半導体材料についても産学官連携によるエコシステムを構築し、京都がパワー半導体の分野において、世界トップを目指す。

**Q.2** 京都の多くの半導体関連企業は、**半導体集積回路デバイス産業領域で主たる事業を担っており、半導体集積回路デバイス産業の成長が京都の半導体関連企業支えになると考える**中、府市トップミーティングにて議論が重ねられている「京都府の産業振興」の観点からも、この半導体集積回路デバイス産業が果たす役割は大きく、半導体産業の推進に向けて基軸とすることが必要と考えるがどうか？

**A.2** 京都には先端半導体や関連する電子部品、洗浄装置などを製造する世界的企業や、これらの企業を優れた技術で支える中小企業が数多く存在し、その多くが半導体集積回路デバイス産業に関連している。「(仮称)京都半導体バレー構想」は、この関連企業の集積を活かし、京都企業が戦略的に取り組んできたグローバルニッチ戦略により、パワー半導体、光半導体、AI半導体の分野に取り組んでいく。これらの分野で世界のトップを目指すことにより、半導体集積回路デバイス産業分野も成長し、京都府の産業振興に繋げていきたい。

**Q.3** 京都には、多くの優れた大学や研究機関があり、高度な教育・研究を積み重ねた若い世代をはじめ、海外の優れたエンジニア、グローバル人材が京都で働きたいと思える環境整備を進める必要があると考える。京都の強みを生かす企業立地に加え、**台湾TSMCや熊本県JASM、国が推進するラピダスとのグローバルでスケール大きい連携を加味したシンクタンク**などの誘致が必要であり、将来を担う人材の働く場を創出するとともに、京都経済への波及効果をもたらすと考える。海外の半導体関連企業の誘致について視野に入れているのか、また、その場合、世界のビッグネーム企業を期待するがどうか？

**A.3** 半導体製造で世界をリードする台湾においては、世界一のファンドリーであるTSMC社を頂点として、本社・工場が所在する新竹市に「企業城下町」的に関連企業が集まり、人材を供給する理工系の大学が進出する形でエコシステムを形成。一方、**京都にはご指摘の通り、多様な半導体産業群が既に形成されている他、優れた大学も多く立地し、また、向日市の「ZET-valley」や**

**けいはんなのロボットセンターなど、実装のフィールドも存在している。こうした強みを活かして世界に伍する半導体拠点**を形成するため、3つの重要分野を定めてオープンイノベーションを推進し、スタートアップ等の参入促進を図りつつ、世界トップの生産から実装までのエコシステムを構築していく。その上で構築した**エコシステムへの世界トップ企業の誘致**を目指していく。

<性暴力被害者ワンストップ相談支援センター「京都SARA」について>

**Q.1** 京都SARAは、行政、医療機関、警察、弁護士会、民間団体等が連携して、性暴力による被害を受けた方へ、被害直後から中長期的にわたる総合的な支援を提供するために開設し、同センターを拠点として、いわゆる**ネットワーク型のサポート体制**となっている。各団体の連携が密になることで被害者の心身の負担が軽減され、安心のサポート体制になっている利点も多い一方で、支援ネットワーク機能を発揮・充実させるためには、構成団体間の情報共有や検討会議等が必要となるが、サポート体制の現状や課題、今後の取組については、どうか？

**A.1** 関係機関相互のネットワークの構築を目的に、「京都性暴力被害者ワンストップ相談支援センター連携・検証会議」を設置し、個別の相談事例を踏まえた今後の支援の在り方の協議・検証を行っており、今年度内の開催に向けても準備中。

**Q.2** 開設以来、相談件数は増加していると聞かすが、電話相談やその後の対応件数や相談内容の状況はいかがか。また、京都SARAでは専門的な研修を受けた相談支援員が被害者に寄り添った支援を行う中、府内各所でサポート人員の不足や育成の課題があり、勤務条件等の改善も必要と考えるが、様々な立場や環境にある相談者にとって、より身近で相談しやすいセンターとなるとともに、府内全域で必要な寄り添い支援が受けられる体制維持についての考えは？

**A.2** 電話相談は増加傾向で令和5年度は1,620件、開設当初比の約1.3倍。来所相談は146件、寄り添い支援で関係機関への同行は93件。相談内容は、約半数が強制的な性交渉やわいせつ行為であり、ここ数年は**デートDVの相談が増加**。多様な相談に対応できるよう、登録して頂いている121名の相談支援員のご協力と専門的な知識やスキルの習得に取り組み、府内全域で被害者支援が可能となるよう、体制整備に努める。

**Q.3** 「**性暴力被害者サポートガイド**」を作成し、相談者への説明等に活用しているが、わかりやすく丁寧な内容で大変有意義なツールであり、被害者救済に加え、広く性暴力や法の改正、京都SARAの周知にも活用すべきと考える。また、リップダクティブ・ヘルツ・ライツの観点も踏まえ、教育機関をはじめ、各方面への指導や啓発、相談事業として、相談支援員を派遣する事業も実施すべきと考えるがどうか？

**A.3** この冊子は、自身の行為が性暴力に該当しうるとの認識が薄いまま加害者となりうることから、性暴力加害の未然防止にも活用できると考え、関係機関と連携した周知・啓発に取り組む。

相談支援員の派遣は、教育機関や市町村等に出向き、周知啓発や被害者へのアウトリーチ型の相談支援にも取り組んでいる。今年度は、高校生を対象に性や妊娠に関する科学的な知識普及の教育プログラム作成の中で、SRHR（性と生殖に関する健康と権利）の観点から「京都SARA」の紹介も盛り込む予定。

